

4. トラブルとその対応事例

4 – 1. 発生が想定される軽微なトラブル事例

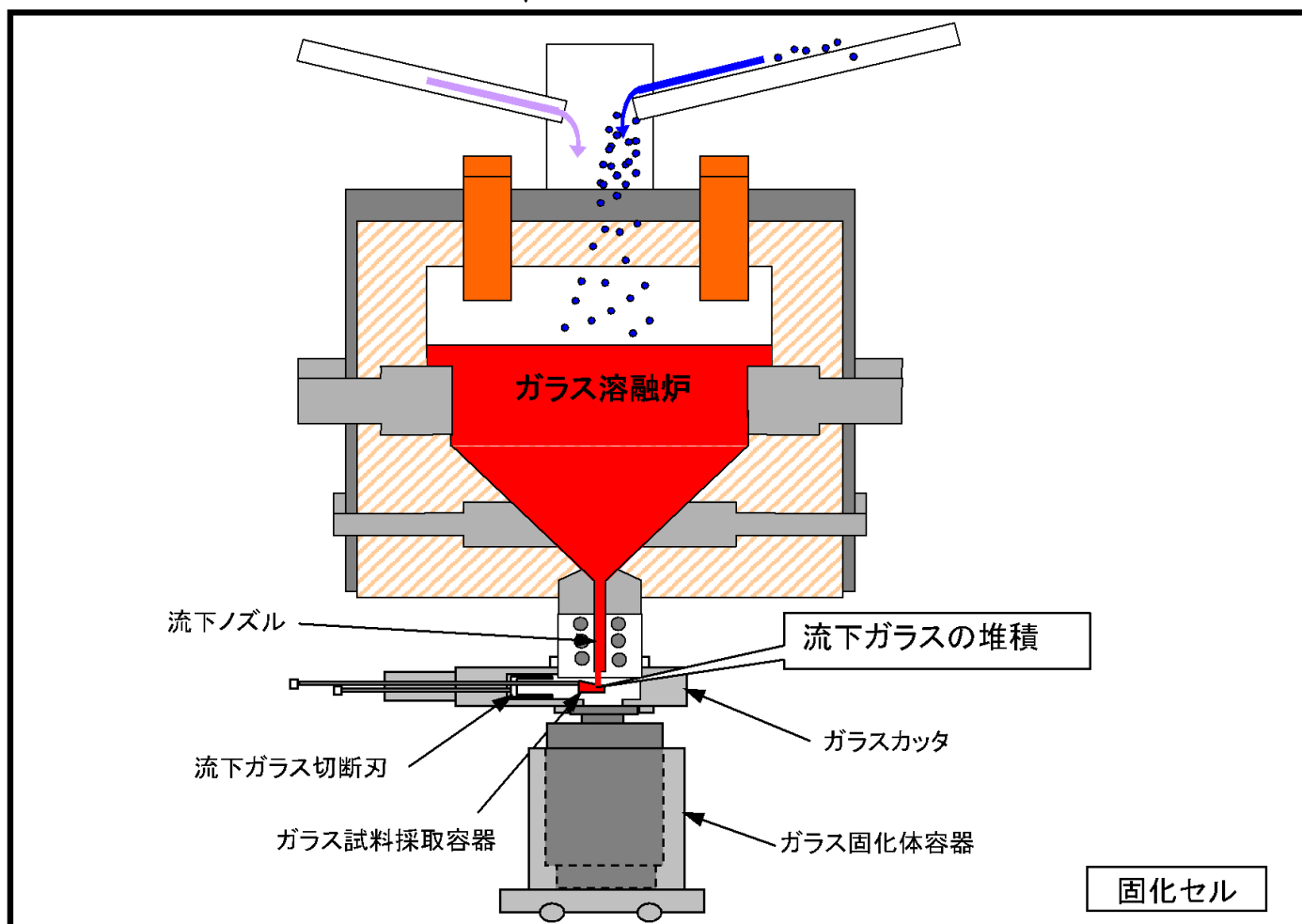
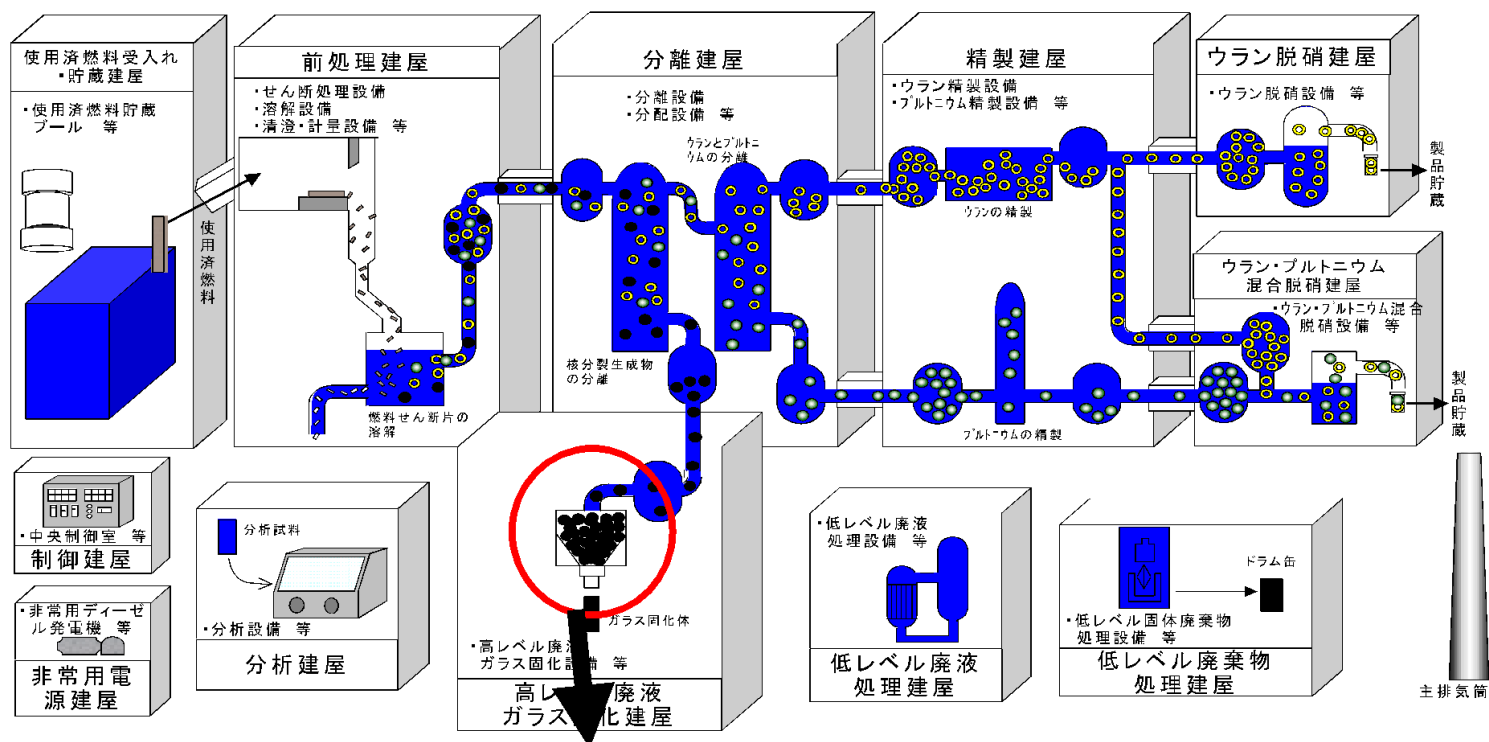
事象分類別（C. 機器動作不良）

3-51. ガラス溶融炉結合装置への流下ガラス堆積

事象の概要																	
(1)発生場所：機器	高レベル廃液ガラス固化建屋：ガラス溶融炉結合装置																
(2)設備の概要	高レベル廃液をガラス原料とともに加熱溶融し、ガラス固化体を製造する工程においてガラス溶融炉とキャニスタを繋ぐ装置であり、内部に溶融ガラスの試料採取装置と流下ガラス切断用カッタを有している。																
(3)発生の状況	ガラス溶融炉のガラス流下操作時																
(4)概要	溶融ガラス流下中に、溶融ガラス試料採取容器の駆動異常のため、溶融ガラス試料採取容器が、流下中の溶融ガラスの流路をふさぎ、溶融ガラスが結合装置内に堆積。																
(5)原因	運転を継続する中で偶発的に発生する機器的な動作不良。																
事象による影響																	
(1)工場外への影響	工場外への影響は生じない。 放射性物質を除去するフィルタ等を有するガラス固化建屋の固化セル換気設備が稼働している固化セル内での事象およびそれに伴う復旧作業であり、放射性物質の放出等の工場外への影響は生じない。なお、本事象は放射性物質等の漏えいを伴うものではない。																
(2)安全性への影響	安全性への影響は生じない。 流下中はガラスの流下速度を監視しており、ガラス流下速度の変動を確認して制御室よりガラスの流下を停止させることが可能であり、ガラス溶融炉は保持運転に切り替えられるため、これ以上事象の進展はなく、安全性への影響は生じない。なお、ガラスの流下状況は監視カメラにて制御室から目視確認することが出来る。																
(3)作業員への影響	作業員への影響は生じない。 復旧作業は、セル外からの遠隔操作で行うため、作業員への影響は生じない。																
(4)他工程への影響	他工程への影響は生じない。 高レベル廃液ガラス固化設備は停止するが、通常は上流側の貯槽(高レベル廃液貯槽)の空き容量の余裕の範囲内で上流工程は運転を継続出来ることから、他工程への影響は生じない。																
対応の概要	1.ガラス流下時の流下速度の変動を確認し、ガラス流下を停止しガラス溶融炉を保持運転に切り替える。 2.必要に応じて溶融炉の運転を停止し、遠隔操作にて推積ガラスを除去する。 3.堆積ガラスが除去されたことを確認し、定められた操作手順に従い溶融炉の運転を再開する。																
公表区分	毎月集約して月 1 回公表（ホームページへ掲載）																
連絡区分*	<table><tr><th colspan="3">トラブル情報</th><th colspan="3">運転情報</th></tr><tr><td>A 情報</td><td>B 情報</td><td>C 情報</td><td>ごく軽度な機器故障</td><td>清掃・調整等で復旧可能な機器停止等</td><td>不適合等</td></tr></table>					トラブル情報			運転情報			A 情報	B 情報	C 情報	ごく軽度な機器故障	清掃・調整等で復旧可能な機器停止等	不適合等
トラブル情報			運転情報														
A 情報	B 情報	C 情報	ごく軽度な機器故障	清掃・調整等で復旧可能な機器停止等	不適合等												

*：『A情報』：安全協定報告事象等、または、それに準ずる事象、『B情報』：事象の進展または状況の変化によっては、安全協定報告対象になるおそれのある事象等、『C情報』：A、B情報に該当しない軽度な不具合、汚染等、特に連絡を要する事象

事象概要



復旧方法

定められた作業手順に従い当該箇所の保修により復旧

トラブル等に伴う設備への影響範囲

当該設備を停止して復旧

